

# 大宮南ロータリークラブ週報

No.1166/第1643回例会(6.12)  
(2012.6.19発行)

創立・昭和53年6月  
例会日・毎週火曜日 12:30~13:30  
会場・サンパレス



会長 八木嘉奈枝 副会長 相澤 和悦・阪 とし子 幹事 大沢 守輝  
事務所・さいたま市大宮区下町2-51-8 コーポKEN406 ☎(048)645-0180 FAX(048)648-2188

## REACH WITHIN TO EMBRACE HUMANITY 心の中を見つめよう 博愛を広げるために

### 第1644回例会プログラム

12:30 開会点鐘  
ロータリーソング  
ビジター紹介  
会長挨拶及び報告  
幹事報告  
各委員長報告  
離任挨拶  
出席報告  
ニコニコボックス報告  
13:30 閉会鐘

### 会長挨拶及び報告

#### 八木嘉奈枝会長

私は仏壇屋でございます。戦後のどさくさが終わりかけた頃、父親の知り合いに古い歴史ある仏壇屋がありまして、その方の影響・薦めもありまして開業することになりました。母親が50代で亡くなり、父親も大変気落ち



いたしまして、サラリーマンをしていた主人が跡を継ぐことになりました。私も主人も遅い子供でしたので、両方の両親が歳を取っており、商売を始めると同時に親の具合が悪くなり、介護保険などありませんでしたから、全てが介護の人の肩にかかってきました。仕事をしながら、オムツを替えながら、という状態で走り回り、見送りました。どういうわけか、叔母二人の面倒も見破目になってしまい、精

神的にも肉体的にも磨り減って、完全に自律神経失調症になってしまいました。主人も私も当然私が先に行くものと思っておりましたので、主人は昔の人で何もできない男だったものですから、この人を自立させないことには私も行けないなあと、それを始めた途端に主人の病気が発覚しました。それから本当にあつという間だした。最後は病院に泊り込んで病院から出勤するような状態を続けておりました。その主人も先月亡くなりましてから丸10年を過ぎました。そして人生を考えてみようと思っている時に会長職をお引き受けすることになり、後少し頑張りたいと思っているこの頃です。

昨日と一昨日、他の団体の被災地応援で福島の会津地方に観光バスで行って来ました。他県からも訪れているので、ホテルも満杯状態でした。本当にありがたいことだと思っております。あの当時日本、海外からたくさんの応援をいただき、あの浄財は被災地のお役に立っているのか、中間報告をしていたら良かったのではないかと思っております。

### 米山奨学金の授与

張 静君(米山奨学生)



### 幹事報告

① IMの活動内容CDのお持ち帰り。

大沢 守輝幹事



## ◇各委員長報告◇

### 押目 重夫次年度親睦委員長

8月4日にスカイツリーの見学(16:15~17:15)という企画があります。現地集合になるかと思いますが、ぜひご参加下さい。



## 会員卓話

### 死刑廃止論

宗像 英明会員

日本もかつて平安時代の身分の高い人に限って死刑が撤廃されているという事実がありますが、その後は戦国時代に入り死刑は執行されてきたわけですが、国民の権利意識が高まった昭和以降、死刑の選考する数も減っ



てきており、法務大臣が誰になるかによって執行されるか否かいびつな現状です。死刑を廃止するか否かどのようにお考えでしょうか？

堀「抑止力の効果があるのではないか」

龍前「犯罪を誘発している」

抑止力があるのかどうか問題になると思いますが、確信犯については抑止力は無いと思います。死刑を撤廃した国、復活した国によってその前後で犯罪の発生率は変わっていないという統計があります。

渋木「疑わしきは罰せずだが、社会防衛という点からも抑止力になるのではないか」

八木「刑を長くして償ってもらおう」

社会防衛という意味では死刑に代わる制度として、無期刑でもよいのではないかという意見は当然あると思います。今日本の無期懲役には仮釈放という制度がありますので、20年位いけば出てきてしまうのです。そこで仮釈放を認めない無期懲役などが考えられています。

龍前「最低限の生活が保障されている刑の執行の状況に問題があるのではないか。本当に残虐な刑があればもっと抑止力になるのではないか」

出野「おかしいよね、我々の税金で」

八木「昨日の人は死刑になりたかったのではなく、刑務所に入りたかったのではないか」

“最良の社会政策は最良の刑事政策だ”という言葉がありますが、これは犯罪を減らすには社会の暮ら

しを良くすることだ、ということです。

渋木「自分の子供などが殺された場合は、遺族としては感情的になるのは当然だと思う。第三者的に見て論議されても納得がいかない」

被害者感情というのも重要視されています。

高橋「自分の都合で殺されている人が増えている、色々なケースがあるのにそれを一括りにして考えてよいのか」

死刑判決には一定の基準を出して長年運用されてきました。しかし一人だったらどんな殺し方をしても死刑にならないのか？ということになってしまいますので、その辺の疑問も最近は出ています。

橋本「法治国家において最高裁で死刑が決定しているにも関わらず、オウム裁判のように17年間も我々の税金を使ってのうのうとしてきているのであるから、死刑廃止論なんてもってのほかです。最高裁で決定されているにも関わらずそれに従わない法務大臣は辞めてもらいたい」

当然そういう論議もあるかと思いますが。法治国家とは法律で決められたことはみんな守りましょうということです。法の支配は憲法の世界であります。憲法に反する法律は違法で違憲な状態になるので無効になります。人の生命を奪うこと自体を憲法が許していないのだと、なぜ国が国民の命を奪い事ができるのかという根本問題に立ち返ってしまいます。死刑廃止の話はどこに相違点があるかということ、気持ちの問題になってしまうのではないかと思いますので、結論が出ない話ではあります。

## 出席報告

阪 とし子副出席委員長

会員数 36名 出席者数 17名 出席率 47.22%  
前回修正出席率 77.77%

杉村 俊明会員



本日の合計 ¥18,000

本年度の合計 ¥585,000

・宗像会員卓話ありがとうございました(八木、大沢、橋本、渋木、堀、黒白、龍前、高橋、押目、柴田)・つたない卓話で失礼いたしました(宗像)・皆様イルクオーレご利用ありがとうございました(阪)・渋木さんこんにちは。お元気そうでなによりです(斉藤)・次年度事業計画提出ありがとうございました。よろしくお願ひします(佐藤)・先週のゴルフコンペ久しぶりに優勝させていただきました。ありがとうございました(出野)・終わってみれば平凡なスコアでした(杉村)

◇本日の司会者◇

黒白 秀之SAA